

第4回宇都宮市総合計画審議会 都市基盤分科会議事録

日時：平成19年12月26日（水）

午後3時00分から

場所：市役所14C会議室

出席

石下 光良	社団法人宇都宮青年会議所理事長
岡本 安之	前うつのみやまちづくり市民会議委員
片岡 泰三	社団法人栃木県情報サービス産業協会会長
黒後 久	宇都宮市議会議員
古橋 克夫	社団法人全日本土地区画整理士会栃木県支部支部長
森本 章倫	宇都宮大学工学部准教授

1 開会

2 あいさつ

3 議事

- (1) 市民からの意見について
- (2) 先進地視察調査の実施結果について
- (3) 主な重点事業の概要について
- (4) 分科会審議結果のとりまとめについて

4 閉会

開会 午後3時00分

事務局

それでは、定刻でございますので、始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中ご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

ただいまより第4回都市基盤整備分科会を開催いたします。

初めに、開催に当たりまして、分科会長よりごあいさつをいただきます。よろしくお願いいたします。

分科会長

皆さん、こんにちは。

ことしも残り、あとわずか残すところになりまして、第2回の分科会で都市空間の基本方針について合意をいただき、そして3回目の分科会では富山のほうへ行かせていただきまして、実際の串とお団子の都市構造ですとか、最新のLRTのシステムを試乗してまいりましていろいろ勉強してまいりました。分科会は、この第4回目が最後になりまして、きょうの議論を踏まえて全体会のほうで審議結果を報告という形でご審議させていただくことになろうと思います。是非、皆さんの活発なご議論等をどうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。

それでは、早速議事に入らせていただきたいと思います。進行につきましては、分科会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

分科会長

それでは、議事に従って進めていきたいと思えます。

きょう、4点の議事がありますので、順次いきたいと思えます。

まずは、市民からの意見についてということで、事務局より説明をお願いします。

事務局

座ったままでご説明させていただきます。

まず、資料1の「市民からの意見について」をごらんください。1の総合計画に関する地域別対話集会「みや・未来トーク」についてでございますが、(1)の趣旨でございますように、本市の将来都市像、またこれからの重点的な課題や取り組むべき方向等につきまして、市民の夢やご意見をお伺いする場といたしまして、(2)の日程等でございますように開催いたしました。

市民からの意見でございますが、(3)の意見でございますように、全体的な事項といたしましては、政令指定都市を目指すべきというご意見や、人口減少時代に向けて人口バランスを誘導するよう

な施策が必要であるというご意見を頂戴したところであります。

都市基盤整備分野に関するご意見といたしましては、3ページになりますけれども、JR駅西口や大通り沿いの再開発、都市景観などの都市計画、開発とまちの魅力に関するご意見や、地域全体における公共交通のあり方などの再整備や道路整備の重要性などの交通についてのご意見を頂戴いたしました。

次に、6ページの2、パブリックコメントについてでございますが、(1)の趣旨でございますように、第1案として作成いたしました計画概案に対しまして、ホームページや各支所等での閲覧などにより、11月29日から12月20日にかけて、市民のご意見を頂戴したものであります。市民のご意見でございますが、(3)でございますように、全体的な事項といたしましては、宇都宮らしさを表現すべきというご意見や、もったいない精神やおもてなしの心を組み入れるべきというご意見を頂戴したところであります。

都市基盤整備分野に関するご意見といたしましては、8ページになりますけれども、中心市街地だけではなく、郊外地域における地区計画の策定などによる一定規模の開発の促進ですとか、ネットワーク型コンパクトシティに賛成しますというご意見と、一方ではイメージがよくわからないなどといったご意見を頂戴いたしました。

今後、市民から頂戴いたしましたご意見につきましては、策定本部にて対応の方向を検討しまして、その対応内容について来年1月の審議会全体会で協議させていただきたいと考えております。

以上、市民からの意見についてご報告を終わります。

分科会長

ありがとうございます。

それでは、質疑のほうに移りたいと思います。

全体を通じて、我々が議論してきたものについて後押しをするような意見が大体多かったというふうに理解してよろしいですか。

あと、特段、ここで議論するときに、さらに追加的な意見として参考になりそうなものというのは、特にピックアップすると何かありますか。

事務局

第2回の分科会でもございましたように、イメージがわかりにくいというご意見もございましたので、今回お示しさせていただいた部分にもございますが、そういった部分では、ご議論いただいていた部分と重なる部分があると感じております。

分科会長

わかりました。是非、これは今回の分科会のために、冒頭、少し皆さんとお話ししましたが、市民にできるだけわかりやすく、目で見えてわかるような形で見せるということをどうやら市民も望んでい

るような感じで意見が来ているというふうに理解できるのではないかなと思うのですが。

何か皆さんのほうから。よろしいですか。

[発言する人なし]

分科会長

では、この時点で特になければ、また後ほど議論いただきます。

では、続きまして、「先進地視察調査の実施結果について」に移りたいと思います。

12月3日、4日の2日間で富山市の現地の視察をしまいいりまして、笠原副市長を初め室さん、元のLRT室の室長さんなどにお会いして、非常に活発な議論と宇都宮のまちづくりに対しての叱咤激励をいただいたようですが、参加者を代表して、副分科会長よりポイントと私見をお願いいたします。

副分科会長

それでは、ご指名いただきましたので、私のほうから簡単にご説明させていただきたいと思います。

今回視察しました調査の項目といいますか、調べてくる中身としては3つほどございまして、1つはコンパクトなまちづくりについて、それから2つ目が基幹公共交通、LRTの導入について、3つ目のまちなか居住の推進拠点の形成等についての3つが主なものでございました。これにつきまして、富山市の副市長の説明をいただきまして、非常にわかりやすい説明だった印象がございます。

まず、コンパクトなまちづくりについてでございますけれども、富山市の市街地の状況を富山市では以下のように捉えているようでございました。まず1つ目は、富山市の戦災復興によりましてかなり道路の整備率が高くなっているということで、そのために市街地が外縁化しまして、市街地の低密度化が進んでいるということが1つでありました。この市街地の低密度化に伴いまして、市街地が広がれば、下水道とか道路とか、そういった都市施設等の維持管理費に非常にコストがかかるわけでして、行政コストが上昇してしまうということ、それからもう一つは、高齢化が進んでおりまして、自動車を使えない人が増えていると、富山市の場合は調査したところ、30%ぐらいの人が自動車を使えないという状況、これによって公共交通を充実する必要があるのだという富山市の市街地の現況を捉えておりました。

こういった市街地の現状から、富山市では、富山市の課題認識を、まず1つは、車を自由に使えない市民にとっては極めて生活しづらいまちなのだということ、それからもう一つは、先ほど言いましたように、割高な都市管理の行政コストが掛かってしまっている、それから中心市街地が空洞化することにより都市全体の活力低下と魅力が喪失している、こういうふうに課題をとらえております。この課題を解決するために、鉄軌道を初めとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化などの諸機能を集積させることによりまして、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現することとしております。この都市構造を、富山市の場合は、先ほど分科会長からもお話ありましたように、お団子と串の都市構造と位置づけまして、お団子に相当する拠点地域を串に相当する公共交通で連結する構造、こういったことをまちづくりの基本方針としているようでござい

ます。以上のわかりやすい説明がございました。

2つ目のテーマでありましたLR Tの導入でございますけれども、富山市に導入したLR Tにつきましては、宇都宮市とはちょっと状況が違うことがございます。といいますのは、富山市は富山駅から富山港のほうにJRの在来線がございまして、その在来線をJRは廃止しようということでしたけれども、それを廃止してLR Tを導入するという、もう既に鉄道があったという状況が宇都宮市とはちょっと違うかなという感じであります。しかし、富山市でLR Tを導入する際の戦略といたしましては、1つには、全市的な公共交通の活性化ビジョンを策定して、その第1弾としてLR Tを位置づけたと、まず公共交通活性化、これを第1としたと。2つ目は、公共交通活性化というのは、コンパクトなまちづくりをしていくためには非常に重要な手段だということで、これに税金を投入するための根拠づけとしたようでございます。それから3つ目に、この2つの考え方を市長自らが市民へ直接説明したと、市長の熱意が表れていたということだろうと思います。それから4つ目で、市長が説明する際に強調しましたのは、宇都宮市の場合に、LR Tの目的とか必要性というのは、人と環境に優しい快適な都市内移動手段、これを確保するためだと言っておりますけれども、富山市の場合には、渋滞の解消とか二酸化炭素の削減という理由ではなくて、人口減少と超高齢化社会でも安心して生活できる都市像を実現するのだということで強調したようでございます。それから5つ目としては、公設民営の考え方を取り入れまして、初期投資とそれから施設の維持管理、これを行政が負担するのだ、それで交通事業の赤字経営の懸念を回避しようということを取り入れられたようであります。従いまして、イニシアルコストは全て税金で負担して、施設の維持管理も税金で、ランニングコストを事業者が賄っていくということのようでございます。それから、プロジェクトの巨大化を避けたということで、複線ではなくて単線の軌道にしたということのようです。それから最後に、既存バス路線の再建を前提としたプロジェクトにしないということを言っています。確かに副市長がおっしゃっていましたから、宇都宮市の場合は大通りにかんりのバス路線が走っていて、果たしてそこへLR Tを導入することができるのかどうかというような後顧をしておりました。その辺は非常に参考になったところでございます。

それから、私の所見ということなのですが、今回は本当に大変参考になる視察だった気がいたします。これから宇都宮市で考えていく際に、やはり富山市と同じように、宇都宮市の場合も基本構想にコンパクトシティを謳っていますので、コンパクトシティを実現することが必要だろうと思います。それから、やはりコンパクトシティを実現するためには公共交通の位置づけというのが非常に大切になってくるのだろうと思います。バス事業者とか鉄道事業者、市、この3者が一体となってLR Tを含めた公共交通の活性化計画、これを策定する必要があるのだろうと、宇都宮市のほうでは今やっているようですけれども。そして、LR Tを導入する際には、公共交通活性化計画で位置づけられたLR Tを導入するためには、まず導入の必要性を市民にわかりやすく説明することが重要ではないかと思えます。今、宇都宮市でLR Tの必要性については、先ほども話しましたように、人と環境に優しい快適な都市内移動手段を確保するためというような理由になっておりますけれども、果たしてこの理由で市民に納得してもらえるのかなという感じがいたします。

それから、今後、宇都宮市で取り入れていく際に配慮する点といたしましては、LRTを導入するにはやはり議会とか市民の皆さんの理解を得ることが最も重要だと思います。そのためには、まず現状をしっかりと捉えて、新たなものを実現するための課題とか、なぜ新たなものを導入するのか、今言いました必要性、これを明確にする必要があるのだろうと。必要性を明確にした上で、熱意を持って議会とか市民の皆さんと納得してもらうまで十分に話し合うことが重要であろうというふうな所見を持ちました。

以上でございます。

分科会長

どうもありがとうございました。

それでは、一緒に行かれた委員の皆さん、ほかの皆さんはどのようなお考えですか。もしよろしければ、一言ずつ感想をいただければと思うのですが。

委員

笠原副市長が、いろいろご忠告を含めた話をしていただいたわけですがけれども、宇都宮のLRT導入のお話になってしまいますけれども、現状を考えたときに、やっぱりバス事業との問題が一番大きな問題ではないかと思えますし、また分科会長も今回、交通の戦略対策関係ですか、あれなんかでも事業者を呼んでご意見聞いているようですがけれども、それも1つ、事業者の位置づけというか、このハードルをどうしても越えなければならないということで、大分バス事業者に頭を下げて出ていただいているような状況もわかるわけですがけれども、お話を聞きますと、ちょっと、LRTの導入ということになりますと、早期にはちょっと難しいということで、私もちょっと話しまして、議会のほうの会派では、悲観的な話ではなくて、問題点なんかについては、そういう機会もあるものですから、ちょっと話をしているところでございますけれども、やはり今、所見にありましたように、これからも徹底して、富山のほうは議会筋の、共産党まで賛成しているということもありますので、ぜひ熱意を持ってその辺の必要性を、本当に市民だけではなくて、まず議会のほうにも示していただかないとなかなか進まないような気がいたしますので、私としては大変いい視察で、前回もちょっとお邪魔したのですがけれども、我々議員団が行きますとそこで話ししてくれなかったものですから、今回、そういう意味で参考になったと同時に、問題点とかちゃんとわかったような気がします。

分科会長

ありがとうございました。

委員

私のほうで、富山市は1日だけの視察と、こういう形になったのですがけれども、あそこの副市長のお話を聞いて、またLRTに乗って、富山に関しては、元々あそこは在来線があって、そういう意味

では宇都宮では何もないところから始めるということで、先ほど言ったように、現状あるバスとのかみ合わせですか、そちらをどう進めていくか、市民に納得してもらう、住民に納得してもらうというのがこれからの課題ではないのかというふうに思いますし、また宇都宮に関しては、富山では単線1本が港までですが、宇都宮では周回するような事業をやっていかないと、これからLRTを作っていくために、ゼロから作っていくためにはそこまでやっていく必要があるのだろうなという感想を持ちました。

委員

私の所見につきましては、6ページの一番下のほうに、本市へのLRTの導入に際してはというくだりでございますけれども、結局、笠原副市長さんなんかのご意見などいろいろとありますが、宇都宮は特に駅東については問題がないのでしょうか、西口については何で必要なのですか？みたいな言い方をされて、実際にバスが束になってあれだけ走っているところに入っていくというのは、非常にハードルがやっぱり大き過ぎるのではないかと申されました。私もそういうような感じがしまして、ほかに通れるところがあるのならば、そこをまず走らせたらどうなのだというふうな、そういうふうな表現がありましたので、ひょっと私もここに書かせてもらったのですが、今計画されている路線を見ますと、清原のあたりが相当うねっていますよね、北からずっと、芳賀工業団地から予定線ではグリーンスタジアムですか、それから清原工業団地の南まで来て宇都宮駅に真っすぐ行くような、そのまますり抜けて大通り、こういうようなことで話を進めておられるのだと思うのですが、東側についてはバルモールを南に下がっていく、宇大の工学部から農学部、教育学部、国際学部から石井街道に入る方法も、2本でできれば一番いい。そして、駅に入って、駅からまた石井街道の延長線上で。そして、今きれいに道ができていますね、宇都宮短大付属高校のあたりを走って鹿沼街道のところまで。こういうところを走ってもいいのではないかなみたいな、そうすればバスとの競合で余り問題がないし、ただし、それが果たして、ではどういう意義があるかということでもた議論があろうかと思えますけれども、そういうふうな発想をさせていただいたということでもあります。このコースの場合は小・中・高の児童、生徒の全面的な乗車で十分に採算が取れるのではないかと。3両編成とかにして。

とにかく、私としては、あのすばらしい電車が、宇都宮にも是非とも欲しいと、作る場合には上に架線を、改めて電柱を立てて線を引っ張ってというのでは困りますので、少なくとも駅西を走る場合にはすべて、バッテリー式なのか地中からの電源なのかエンジンの問題なのでしょうけれども、東側を走ってきて、パンタグラフを落として、そしてこちら西口からは架線ではなくて、パンタグラフを使わない方式で是非走っていただきたい。現実にヨーロッパなんかでは、どこかではパンタグラフのない電車が走っていますよね。それをぜひとも宇都宮には導入して、富山はまだ線がありますからね。どうしても私はLRTが欲しいと、そういう感想を持ちました。

分科会長

ありがとうございます。

そうしますと、いかがでしょう。お話を聞いて何か思うところがあれば。

委員

私は、今回ちょっと参加しませんでしたけれども、先ほども誰か言っていましたけれども、バスとの共生というのですか、バスとの共生という場合、やっぱり旧市内において本当に実現できるのか、ヨーロッパでLRTの入っている都市というのはあるのですけれども、全体的にはバスがほとんど走っていないのではないかと。ですから、ヨーロッパの場合はLRTが中心になっていて、細かいところのバスというのは走っているという記憶がほとんどないです。どこへ行ってもLRTが走っていますけれども、そういう都市基盤というか、基本が何か大分違うのではないかなと。そうすると、この宇都宮というのは、従来はバスが中心になっていたところにLRTというものの現実化というのを考えたときには、なかなかやっぱり旧市内の問題、それと今どんどん外部のまちづくりが進んでいますね。そういうふうなところと、ただ今、お話があったように、まずそういう基盤をつくりながら利用を可能にするというのですか、よく我々、仕事の関係で言われるのは、清原とか芳賀とか、駅東においてタクシーで5,500円ぐらいかかる、これが、乗り合いタクシーにしてもかなりの負担がかかると、やはりそういうのが、せつかくああいう集積をしても、そこに行くのにコストがかかり過ぎる。よく東京のいろいろなメーカーの方とかの話を聞くと、その辺が宇都宮というのは何かちょっと不便だという話を聞きます。そういうところがLRTとか、そういうものの活用をできると、かなり時間的な問題とか、あと短縮につながるのではないかなという。

分科会長

ありがとうございました。

私もちょっと若干意見を述べさせていただくと、富山はいろんな特徴があるのですけれども、皆さん、LRTということで、今すごい視察団が行かれています。行ってみて感じたのですが、LRTの論点というのは恐らく2つあって、これは共通の論点だと思うのですけれども、1つは、今ある公共交通ですとか今ある交通ネットワークを再構築することによって、将来持続可能な公共交通の仕組みをつくりましょうという考え方です。この考え方という、例えば宇都宮の場合は、駅の西の大通りに2,000本のバスが走っているから、これを整備、再構築することによってもっと市民が使いやすいような形にできるのではないかと、こういう発想。この中では、採算性もちろん考えながら、大赤字になるようなものは基本的にはやらない方針をとりながらやっていくという考え方です。

もう一つは、実を言うと、LRTは公共交通というよりもまちづくりのためにやるのだと、つまりコンパクトで集約型の都市構造をつくるための骨組みとして起爆剤としてやるのであって、現在の需要、採算性というのは余り関係なく、むしろ将来の需要、採算性、つまり将来のコストを考えて、将来まちが負担しなければいけない、スプロールによって負担しなければいけないコストをいかに低く

するかというところに論点を置いてLRTを位置づけていくと。こういう議論のところでは、現在の採算性よりもむしろ未来の、将来の、20年先のまちの収支のほうを重点的に考える。どちらを重点的に考えるのかというのがあって、富山のほうは今、非常にLRT、たくさん乗っています、黒字ですよというのですが、よくよく聞いてみると本当は黒字ではない、まちからかなりの部分の支援をしていて、赤字覚悟でも、これは高齢者の足の確保なのだから、市民サービスの一環なのだと、道路、橋をつくるのと全く同じ考え方でやるわけだから、そこから金もうけをしようなんということを考えているわけではない、こういう発想に立つのならば、私は宇都宮は駅東側からやっていけばいいと思います。採算性なんかは言っているわけではなくて、まちづくりのために都市構造を集約型都市構造にするために入れるのだというのならば東側から入れればいいし、前者の議論の公共交通の再構築まで踏み込むのだということになれば、もちろん西側のほうの統合再整備、バスとの競合、もちろん対話の中での競合をしなければいけないのですけれども、対話をしていくという、何か2つの側面が今回行って非常に明らかになったなど。今までの考え方からいうと、公共交通再整備のほうがどちらかという重点的に考えていたのだけれども、どうやらその次元をもうちょっと超越した次元で、さっきちょっとヨーロッパのお話もありましたように、ヨーロッパなんてもともと採算性とれているところはどこにもないわけです。そういう発想で立つのならば、LRTの整備というのは、笠原さん言われるように、一番市民が合意とれるところからやっていけばいいではないかという発想もありかなというふうに思いました。

いかがでしょう、皆さん、ちょっと、もし何かご意見あれば。

委員

私も帰ってきて、報告書の中では駅東からということ。最初、それでもって議会も、議会、議会と言って恐縮なのですが、全体で、共産党の会派を除いてゴーサインを出したわけです。その間の議論というのは、あくまでも環境問題とか交通渋滞の問題、どうしてもとられ過ぎまして、今回勉強したようなことはなかったわけです。議会でもそういう状態なわけです。その会派は28人、50名のところ28人いる会派なのですが、早速戻りまして、会長とも相談したのですが、これは導入推進室長も、あるいは部会長の笠井部長を呼びまして、今度のような話を、私ども向こうでされたような話をしてもらっていないと、先々、ほかの場合は、本会議なんかでも、みんな賛成で始まったことがいろいろ反対意見ばかり出てくるようになったわけです。少なくとも、市民といっても議会が理解しませんと進まない話でございますので、いろいろな観点から、我々は説明会を近々持つ話までいっています。そんなことで、私は一つの選択肢として駅東側からやるということをやちょっと書かせていただきました。

分科会長

皆さん、いかがでしょう。

視察に絡んで、かなり話が宇都宮のほうまで飛んでおりますけれども、いずれにせよ、LRTの間

題は避けて通れないというか、我々にとって非常に大きな重点課題だということで認識しております、その取り扱いについては、皆さんで議論をして、ある一つの方向性を出せばいいかなというふうに思います。

それでは、引き続いて、重点事業の中にも今のようなお話が出てきますので、あわせてまた議論してみたいと思っております。

では、すみませんが、これは事務局のほうから重点事業についてご説明いただけますでしょうか。

事務局

それでは、資料の3のほうの重点事業についてご説明させていただきます。

先ほど3ということで、3本、事業のご説明がありました、私のほうから1番目の資料3の1に基づきまして、宇都宮駅東口地区整備事業についてご説明いたします。ここでは、これまでの分科会等での審議なども踏まえまして、現在分野別計画への計上を検討している重点事業の内容についてご説明いたします。

まず、資料3の1、1番、宇都宮駅東口地区整備事業であります、本事業につきましては、基本施策「機能的で魅力のある都市空間を形成する」に位置づける事業といたしまして、その下、事業の目的・必要性にもございますように、本市における重要な交通結節点でありますJR宇都宮駅東口における市有地、ほかにはJR東日本の所有地などを有効活用いたしまして、公共と民間が一体となりまして、21世紀における本市のまちづくりをリードする新たな都市拠点の形成、さらには県、市の玄関口にふさわしいシンボル性のある都市環境の整備を図ることを目的とするものであります。

続きまして、事業の全体概要でございますが、裏面にイメージということで図も載せさせていただいておりますので、ちょっとあわせてごらんいただきたいと思うのですが、この事業につきましては、宇都宮駅の東側に隣接いたしました約7.3ヘクタールの区域を整備区域といたしまして、まず宇都宮市が土地区画整理事業、さらにはまちづくり交付金なども導入いたしまして、駅前広場、道路、さらには歩行者デッキなど基盤施設の整備に取り組むとともに、公民パートナーシップ型手法ということで、平成16年に提案協議を実施いたしまして、そこで選定した民間事業者、事業予定者をパートナーといたしまして、事業者がオフィス、商業などの民間施設、さらにはコンベンションなどの公共施設が一体となりました拠点施設を整備することによりまして、おもてなし、さらにはシティーセールス、新たな拠点といたしまして高次な都市機能の導入に取り組むものでございます。

今後のスケジュールでございますが、先ほどご説明した区画整理等につきましては平成20年度完了を予定しております、平成20年度には新しい駅前広場の供用を開始する予定となっております。また、同じく平成20年度には立地施設の建設工事に着手いたしまして、平成22年度の竣工、さらには23年春には立地施設のオープンを目指す計画となっております。

引き続きまして、資料3の2でございます。東西基幹公共交通（LRT）の導入というものでございます。本事業は、基本施策「円滑で利便性の高い総合的な公共交通体系を確立する」に位置づける事業といたしまして、事業の目的・必要性は、人と環境に優しい快適な都市内移動手段を確保する

ため、東西基幹公共交通として新交通システム（LRT）の導入を推進するということが目的としているものでございます。

事業の全体概要でございますが、裏面の事業イメージとあわせてポイントを説明させていただきます。導入区間につきましては、桜通り十文字から宇都宮テクノポリスセンター地区まで約15キロ、導入方式につきましては、LRT、次世代型路面電車ということでございます。それから、建設費用につきましては、全体計画区間15キロにおきまして約355億円でありまして、事業運営方式につきましては公設民営方式であります。

スケジュールにつきましては、平成15年度に市民、企業への広報啓発などを進めてまいりましたが、平成16年度に導入課題整理及び課題解決のための調査検討を行いまして、平成19年度から事業運営スキームの調査や市民、関係者との合意形成に向けた取り組みを行っているところであります。また今後、21年以降につきましては、事業実施計画の策定あるいは関連手続、これについては軌道法とか都市計画法の手続でございますが、そういったものあるいは会社設立あるいは施設の整備、そういったものにつきまして行ってまいりたいというふうに考えております。

続きまして、3の地域内交通の確保についてあります。資料3の3をごらんください。

本事業は、基本施策「円滑で利便性の高い総合的な公共交通体系を確立する」に位置づける事業といたしまして、事業の目的・必要性であります。市民のだれもが安全・安心に移動できる社会の実現に向け、生活交通確保プランに基づき、地域が主体となって実施する乗り合いタクシー等の地域内交通に対する支援を行い、市民の生活交通を確保するというものであります。

事業の全体概要であります。まず裏面をごらんください。まず、地域内交通というものでございますけれども、路線バスなどの公共交通が不便な地域におきまして、ジャンボタクシーなどを活用して、スーパーマーケットとか病院、銀行など日常生活に必要な施設をつなぐ交通のことであります。今後、各地域の実情に応じた地域内交通の導入を進め、鉄道、路線バスなどさまざまな交通手段が相互に連携した総合的な公共交通ネットワークを構築していくというイメージであります。

内容といたしまして、事業の全体概要であります。対象地域につきましては、宇都宮市全域のいわゆる公共交通不便地域として、今後、各地域の実情に応じた導入を進めてまいりたいと考えております。

事業内容といたしましては、まず地域内交通に関する説明会を開催するなど、地域住民の意識醸成を行い、地域住民の意向を把握するためのアンケート調査を実施します。その結果をもとに、運行形態、運行計画、費用負担など、地域の実情に合った地域内交通の検討を行い、運行内容を決定してまいります。

次のページのスケジュールであります。スケジュールといたしましては、平成18年度に生活交通確保プランを策定し、清原地区で地域内交通について説明会を行い、19年度に具体的な内容を決定いたしました。来年の1月に運行が開始される予定となっております。今後でありますけれども、各地域におきまして説明会を行うなど、地域内交通の導入を進めてまいりたいと考えております。

主な重点事業の概要につきましては、以上で説明を終わります。よろしく願いいたします。

分科会長

ありがとうございます。

それでは、質問を受けたいと思います。

それでは、冒頭に、重点事業というのは全部で何個あって、何個の中からこの3つと決めればいいですか。

事務局

委員の皆さんの机に、以前お配りいたしました計画書の概案が配付してございます。資料の82ページからが当分科会に該当する部分でございまして、全部で現段階で14の重点事業がございまして、そのうちの3つを、ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けてということで、部会のほうで特に重要と思われたものを3つ挙げさせていただいたところでございます。

分科会長

そうすると、きょうここでは14個のうちの3つの中身を議論すればいい、それともこの3つに何かを加えなさいというような議論。

事務局

今回の3つについてというような。

分科会長

わかりました。

重点課題の中でも、さらに絞り込まれた非常に大きな、我々認識しているよというのが大体この3つでよろしいかどうか、中身は大丈夫かというところの部分に関しては。

副分科会長

基本構想の中ではコンパクトシティという言葉が出てくるのですけれども、基本計画、各論に入ってくるとコンパクトシティという言葉がなくなっているような感じがして、今、コンパクトシティに絡んだ重点事業だというお話を聞いたので何うのですけれども、例えば地域内交通の考えというのは、コンパクトシティを目指しておりますけれども、拠点の中で地域内の交通を確保するのですよという意味でよろしいのかどうか、そういう繋がりなのでしょうか。

事務局

ご指摘のように、私のほうから、概要に対する意見書をお出しいただいたというのを、そのようなご指摘をいただいております。おっしゃるとおり、こちらに書いてありません。今後、分野別計画のほうにもネットワーク型のコンパクトシティを目指していくのだということをはっきり書き込んで

いきたいと。

副分科会長

そのほうがわかりやすいと思うのですよね。

事務局

ちょっと言い方を変えて、高密度化、集約化された都市とか何か、ちょっと回りくどい言い方になってしまっていますので、今後整理していきたいと思います。

委員

市街地再開発事業の促進、83ページ、内容で、宇都宮駅西口については第4B地区の市街地再開発の、第4Bというのはどこのことになるのですか。市民会議の中でも再三強く要望しているのは、現在の宇都宮駅西口の駅前広場からメインストリートの再整備を強力に推し進めていただきたい、ある程度そこについては、市長への提案、最終的にご提案をさせていただいたときにも、映像を映し出したりしながら、ある程度の構想についてご提案をしたら、市長のお言葉としても、是非、これはいい提案だな、取り組んでみたいなというふうなご返事までいただいておりますのに、どこにも何にも書いていない、西口の全体の。これは私には非常に不満でして、なぜ、いや、それを取り組みますというふうなご返事もこちらの事務局で以前にいただいた経緯があるのですけれども、やはり未だにないではないかと、私としては非常にけしからぬという、そういう思いがしております。

事務局

今委員のほうからご指摘があったところがございますが、まず1つは、重点事業かどうかという部分がございますが、今回の概要につきましては、重点事業だけが明確に事業として載っていますが、最終的には基本事業というところが、今、言葉だけしか書いてございませんが、そういうところにも入ってくるというところがまず1つございまして、重点事業に取り上げるかどうか、今後ちょっと庁内で検討させていただきたいということと、もう一点は、今見ていらっしゃる概要の83ページのほうに、西口の整備といいましてもいろんな要素が入ってございますので、その83ページの重点事業の一番下の欄でございますか、景観の部分につきましては、そういう側面からはこちらのほうで取り上げてはございますが、残っているところの整備、開発整備につきましては、その取り上げ方につきましてはもう少し検討の時間をいただきまして、載せ方を考えさせていただきたいというふうに考えてございます。

それからもう一つ、つけ足しになりますが、いろいろお世話になりました市民会議のご提案につきましては、2月の下旬のころ、旧の委員さんのほうにお集まりいただきまして、総合計画にこのような形で反映させていますよというふうなご報告の場を設定させていただきたいと考えてございますので、よろしく願いいたします。ご案内のほうは後ほどいたしますので、よろしく願いいたします。

分科会長

きょうですが、お配りいただいた主な重点事業、この3点ございますけれども、私の認識では、ネットワーク型コンパクトシティをつくりたい、そのためのネットワークの部分がこの2枚目、3枚目で、コアの部分が1枚目という、要は拠点の例として一番大きな拠点、もちろん今、委員の指摘があった西口の拠点、それからここにも雀宮ですとか岡本とかいろんな拠点があるわけです。いろんな拠点があるけれども、総じて今動いている中で一番大きなというので東側、拠点としては1つ出ている。2枚目以降は、ネットワークでどう繋ぐかというところで、主軸となる基幹交通のLRTの話と、もちろんこれだけでは多分完成しませんから、これを補完し、きちんとしたネットワークにするための施策として地域内交通の話がある、こういうふうにご理解いただくとよろしいかなと。

よろしいですか。

副分科会長

今の会長がおっしゃった内容については 富山の例ではお団子と串という非常にわかりやすい表現をしていましたけれども、宇都宮での何かそういう、ネットワーク型のコンパクトシティを市民の皆さんに理解してもらうために、僕はわかりやすい表現を入れるといいのではないかなという感じがします。

分科会長

それについては、後ほど多分ご説明があるのだと思うのです。重点事業についてはよろしいでしょうか。

[発言する人なし]

分科会長

わかりました。では、今ご議論いただいたような形を踏まえて事業の検討をお願いしていきたいと思えます。

それでは、続きまして、4番目の分科会審議結果のとりまとめということで、きょう4回目、最後だということで、ぜひこれは取りまとめていかなければいけないのですが、その取りまとめの原案をきょうお手元にお配りしております。

委員

途中で申しわけないのですが、1つだけいいですか。

地域内交通の確保についてなのですけども、これは私が以前に、ある機会に、篠井の猪倉街道とありますね。あれは石那田地区にあるのです。そこで、個別にいろいろな意見をお聞きしたりしましたときに、ちょうどいわゆる乗り合いタクシーの話がありますけれども、具体的に市としてはどの辺のところをそういう乗り合いタクシーの該当地区に考えているのかなと。猪倉街道はもうバスがなく

なってしまって、あそこの高齢者の人たちが、1日に1本でも2本でもいいから、とにかく何か病院に行ったり、買い物に行ったり、もう車に乗れなくて不便でしょうがないと泣いていたのです。何とかここにそういうものを走らせてもらいたいと。バス、バスと言っていました、ほかには考えられないからかもしれないが、具体的に例えば猪倉街道という、わかるかどうかわかりませんが、あの地域について、例えば乗り合いタクシーの適用なんかは市としては考えていただけないでしょうか。

事務局

ただいまの地域内交通の件ですけれども、その対象地域としまして、鉄道でありますと、鉄道の駅から1.5キロ、それからバス停ですと250メートルの圏域外のところを交通不便地域という形で整理させていただきまして、その部分につきまして、そういった方々の対象地域に今後入りまして、その地域に一番どういう、例えばコミュニティーバスがいいとか、乗り合いタクシー的なものがあるとか、そういうものではなくて、もう少し小さなタクシーがいいとかというものを地域の方たちと一緒に話合って、一番乗りやすい、使いやすいといったものを考えていきたいと思えます。石那田地区におきましては、地元の方たちに1度アンケートをとっていただきまして、どういう意向があるのかというのをやったところでありまして。それと、市におきましても、老人会の方を対象に説明会を開催したところで、今後さらに入っていくように、そういう一番乗りやすいようなものを考えていきたいと思ひまして、猪倉街道の沿線の方につきましても、そういった方に説明していきたいと考えております。

以上です。

分科会長

個別のエリアのお話については各重点事業の中で議論していくことになろうと思ひます。特に清原地区は来月から「さきがけ号」というのが運行いたしますし、篠井地区についても、今ちょっと私の研究室でお手伝いをしておりまして、どんなネットワークでどういうふうなものを走らせれば一番いいのかというのを議論しております。これも引き続き、いろんな地域でこういう話が出てくると思ひます。

では、よろしいでしょうか、重点事業。

〔「異議なし」と言う人あり〕

分科会長

それでは、とりまとめということのご説明、資料4の報告書案が出ていますので、ご説明のほうをお願いいたします。

事務局

それでは、分科会審議結果のとりまとめについてご説明をさせていただきます。

都市基盤整備分科会につきましては、8月1日の初会合以来、分野における課題認識や今後の取り組みの方向などに関する審議、先進地視察調査を行っていただいたところであります。その間、事務局といたしましては、審議会のご意見などを踏まえながら、課題認識や取り組みの方向を導き出し、これらをもとに地域のごとの対話集会「みや・未来トーク」を行うとともに、第1次案となる計画概案を作成し、パブリックコメントを行い、市民からの意見をちょうだいしてきたところであります。この計画概案につきましては、審議の場での時間が限られておりましたので、委員の皆様にも書面でご意見をちょうだいいたしましたところであります。

資料4をごらんいただきたいと思ひます。資料でございますように、審議結果報告書（案）、これにつきましては、これまでの分科会でのご審議や計画概案に対するご意見のうち都市基盤整備分野に関するものなどを取りまとめまして、分科会長さんと協議の上、案としてお示しさせていただいたものであります。なお、ご意見のうち1番、都市空間形成の基本方針、ここに4点記載されております。この4つ目の方針であります。これにつきましては、分科会長さんとの協議の中で新たに追加した項目であります。

次に、別紙、A3の資料をごらんいただきたいと思ひます。まず、1の今後の進め方についてありますが、(1)の基本計画にかかる審議でございますように、3種類のご意見をベースに審議結果報告書（案）をお示しさせていただいており、分野別計画の重要事項をご審議いただいております。当分科会の審議結果につきましては、これをもとに本日取りまとめをいただき、来年1月16日に開催されます第3回全体会において分科会長よりご報告いただきますとともに、最終的には来年1月29日にちょうだいします答申書として反映されることとなります。

次のページ、A3の2ページをごらんいただきたいと思ひます。2の(1)、協議結果に関する項目です。でございますように、分野別計画に対するご意見のうち、ご自身の分科会の所掌分野以外に関するものがこの一覧表に記載されております。これにつきましても、当該分科会でのご議論に加えた上、審議結果報告書に反映いただきたいと考えております。

次に、3ページになりますが、今回の分科会の議事ではございませんが、(2)の基本構想にかかる審議でございます。将来のうつのみや像に関するご意見につきましても同時にちょうだいしております。これにつきましては、翌年1月16日の第3回全体会にてご審議いただきたいと考えております。

基本構想に係る全体会での審議内容、また計画概案の基本構想に対してちょうだいいたしましたご意見につきましては、同じく1月16日の第3回全体会にてご審議いただき、その結果を踏まえ、1ページ、先ほど申し上げました(1)でご説明いたしました基本計画に係る審議結果を含め、最終的には答申書として決定いただこうと考えております。

審議結果報告書及び別紙に関する説明は以上であります。よろしくご審議のほどお願いします。

分科会長

ありがとうございます。

審議報告書は、これは文書の形で出すことになるのですが、最初の分科会から、是非イメージ像を

ということで、これは事前に見せていただいて、これに合わせてイメージを是非つくっていただけないかという私の強い要望を聞いていただきまして、手元にカラーのものがあるかと思えます。すみません、これも追加で説明をお願いできますか。

事務局

将来の都市の姿について、この資料について説明をさせていただきます。

ネットワーク型コンパクトシティのイメージをわかりやすく整理するというので、今回、分科会長にもアドバイスをいただきながら、本日の議論のたたき台としてカラーの資料作成をさせていただきました。

まず、1枚目の資料をごらんいただきたいのですが、ここで基本構想において表現いたしますネットワーク型のコンパクトシティのイメージと、あと資料の2枚目になりますが、基本計画で表現していくことになろうかと思えますけれども、中期的な都市構造のイメージを作成したところがあります。まず、1枚目の目指すべき将来の都市の姿の資料でありますけれども、左側のピンクの図がありますけれども、左側のピンクのものが現在ありがちな都市の姿のイメージということで、特徴ですとかそれぞれの境目というものがちょっとぼわっとした感じで薄く広がった都市、それに対して将来の都市のイメージということで、右側は、都市拠点や地域拠点、産業拠点と居場所、それぞれの拠点の機能が高まっておりまして、ここでは都市機能の集積度合いを山の高さで表現をしておりますけれども、魅力的な拠点となって、それらが公共交通などの軸でしっかりと結びつけられていると、そして長期的には、その軸ですとか拠点に人々が集まって、人口ですとか都市活動に見合った市街地の大きさへとスマートになっていくというものをイメージで表現をしております。こうしたイメージでどうだろうかということなのではございますけれども、また、先ほどお話がありましたけれども、より市民の方々にわかりやすくということで、事務局で検討させていただいたものが右側の吹き出しのところにあるものでございます。

お話にあったように、富山はお団子と串、あと浜松はクラスター型というふうな表現をしておりますけれども、宇都宮では、今あるさまざまな拠点あるいは拠点性の高いエリアというものを有効に生かしながら、それらの機能を高めまして、さらにその拠点間に軸を形成することによって機能を連携させたり補完をさせるという構造を目指しているわけではございますけれども、吹き出しにありますように、夜空の星座になぞらえて説明してはどうだろうかというふうに考えたところでもあります。吹き出しのところにありますけれども、市域がまちづくりのシナリオというものを演ずる舞台となって、拠点を、星座でいえば星ですけれども、星を軸で結んで輝きを高めていこう、そういうイメージに合うのではないかということで、ネットワーク型コンパクトシティを目指していくということで、宇都宮をいつまでも市民が夢を持てる舞台にしていく、星座が形づくられたような都市、そんな表現もできるのではないだろうかというふうに考えたところでもあります。基本構想の中では、こうしたものを長期的に目指していくのだということ表現をいたしまして、基本計画ではもう少し宇都宮市の実情に沿った形で具体的なものを示していきたいと考えております。

今の宇都宮の拠点とか軸がどういうふうになっているのかということですが、また今後どう
いう拠点とか軸を強化していくのかということ、そういう必要性とかその方向性を整理したものな
のですけれども、資料の3枚目でございます。現在の拠点軸の形成状況というのがございます。産業拠
点ですとか観光拠点というのは別になりますけれども、都市拠点とか地域拠点を考えていく上で一定
の人口の集積が必要ではないかというふうに考えております。こうしたことから、左上に青い図があ
りますけれども、これは人口のメッシュですけれども、破線の黒い円で囲ったところが人口集積の高
い地域ということで、拠点性の高いエリアと言えるのではないかと考えております。こう
した人口の集積に加えまして、拠点間をネットワークしていく上で交通の機能あるいは交通の交わる
結節機能、そういったポテンシャルが高いというものも求められるのではないかと考えております。この
資料上段の真ん中ですが、鉄道ですとか高速道路のインターチェンジがある地域、また一番右
側にあるバスの路線網ですが、主要な公共交通の一つであるバスの充実度なども勘案をいたし
まして、ちょっと資料にお戻りいただくことになってしまいますけれども、都市構造図という、この
2枚目にあるような都市構造図に落とし込みをしたところでありまして、先ほどご説明したような、人
口の集積度が高く交通結節機能が高い、またはバス交通が充実している、こうした要素が重なり合
ったところが地域の核としてのポテンシャルが高い地域ではないのだろうかというふうにとらえたこ
とであります。

ほかの富山とか浜松とかにもありますけれども、やはり地理的な特性ですとか都市の成り立ち、ま
たつくりなどからさまざまなタイプの都市空間形成の方向というのが示されておりますけれども、宇
都宮と同じネットワーク型というのを考えている富山では、拠点ですとか拠点を結ぶ軸上、交通軸上
に都市機能ですとか人口を集積していくという考え方がとられております。また、視察で出た話です
けれども、規制を強化するだけではなくて、インセンティブを与えて誘導していこうという方策がメ
ーンであるというお話も聞いております。宇都宮におきましても、さまざまな魅力的な選択肢とい
うものを市場原理も活用しながら提供していくということが必要になってくるのではないかと
いうふうにとらえております。

この都市構造図、ちょっとパソコンで手づくりした資料なので、ちょっとごちゃごちゃした感があ
るのですけれども、ご容赦いただきたいと思っております。左側が現在の形であります。資料の真ん中辺、
ページのところがありますけれども、これが比較的人口の多いエリアということで、それに加えま
して鉄道ですとか幹線道路、高速道路などを記載しております。そのフィールド上に、中心市街地
であります都市拠点ですとか、雀宮などを地域拠点、また清原工業団地などの産業拠点、あとは大谷の
観光拠点、そういったものを円で位置づけをしております。紫色の矢印がありますけれども、こ
れはバス交通が比較的充実をしているラインでございます。それを将来どのようにしていくのか、こ
れは基本計画の方に位置づけてまいりますので、基本計画の計画期間であります今後の10年ぐ
らい先を目安にしておりますけれども、右側の図に都市空間形成の方向性を表現しております。

どこがどう違うのだというお話になろうかと思うのですが、非常に長期的な取り組みになっ
てまいりますので、やはりまず軸を強化していきましょうということで、点線の矢印で書いてあ
りますけれども、

ども、これを形成したり強化していくことを表現しております。特に左側と違うのは、北に延びる軸と東西の軸、鬼怒川を渡った東西の軸を強化していくということを表現しております。また、拠点につきましては、拠点性を高めていくということを色の濃さですとか線の太さで表現をしたところがございます。具体的な軸の形成ですとか強化の方策につきましては、公共交通が中心になってくるかと思えますけれども、現在都市地域交通戦略の策定が進められておりますので、この検討の中で議論が深められて具体化されていくというふうに考えております。

あと、日常の生活エリア、徒歩や自転車で行動するような生活拠点、生活圏というエリアにつきましては、たくさん市内にごございますので、すべてをこの図の中で表現し切れませんので、この図の真ん中あたりにイメージを記載しております。1つの生活拠点あるいは複数の生活拠点を、例えば先ほど説明のありました、地域内交通などで網羅をいたしまして、地域の拠点あるいは拠点性の高い地域と連携させていくことによって、中心市街地である都市拠点と地域拠点、そして生活拠点というものがきちんと連携をできるような、そういう構造を目指していきたいということをここでは表現しております。

非常にちょっとごちゃごちゃした図面で、雑駁な説明になってしまいましたけれども、以上でこの図面のイメージの説明を終わります。ご審議のほどよろしく願いいたします。

分科会長

ありがとうございます。

以上で、今後の資料は全て説明していただいたのですが、まずは、審議結果報告書（案）になっていきますので、この「案」を取るべく、見ていただきつつ、最後にご説明あった都市の姿のイメージという、こういう具体的な絵もかいてみました。セットでご議論いただければと思います。

委員

1ページの、ちょっと質問というか、ご説明をいただきたいのですが、「道路見える化計画」という言葉をちょっと初めて聞きましたもので。

分科会長

この「道路見える化計画」というのは、今から3年ぐらい前に関東地方整備局が始めた試みでして、道路の整備に当たって住民に十分に説明をしながら、なぜその道路をつくらなければいけないのかと、効果はどうなのだとか、実際の現地の現場へ行って、工事現場へ行ったときに一体何をやられているのかと、工事看板を工夫したり、できるだけ市民に道路整備についてはわかりやすくしましょうという試みで、国道、県道を中心にスタートしました。その試みに宇都宮市長が感銘を受けて、市としては全国で初めて宇都宮市が「道路見える化計画」というのを今年からつくって、道路整備のこれからの整備、大体どこを整備するのかとか今どんな状況になっているのかというのをやり始めたところなのです。この実際の動き出す、つまり来年度どこを整備するのかという、手とか足になるような部分

と、この分科会で議論してきた基本的な我々の考え方をぜひ連動させるような形をとっていただきたいということで、これは私からもお願いして「道路見える化計画」という言葉を入れさせていただきました。

委員

ちょうど富山で副市長さんがいろいろお話ししている中に、国によくPRできるような文面を工夫すべきだと、そのような表現が確かあったと思うのですが、そのようなこともこの中に含まれていませんね。要するに、通り一遍の事柄とかではなくて、もっと内容のある、これだという内容を込めて新鮮にしないと認められないのではないかと。

分科会長

例えばこういう都市構造を多分つくっていかうとすると、いろんな道路整備も今度は同時に必要になってくると思うのです。例えばLRTを入れました、そうすると迂回路が渋滞をするので、迂回路の道路整備も必要になります。では、道路整備をするときの基本的なところはどこが、誰がどういう手順でやっていくのかと言われると、今までの総合計画の中ではとてもそこまでは入っていません。だから、今回は是非そういう、どういうところをどういう順番で優先順位でやっていくのかということとを議論している計画との連携を図りつつ、コンパクトなまちづくりを道路行政の中でも実現していただきたいと、そういう意味でここに入っている。

副分科会長

「道路見える化計画」の目的みたいなものを前に入れるとわかりやすい。

分科会長

そうですね。ちょっと文言、では少し、都市地域交通戦略、これは分かりますか。

委員

都市地域交通戦略というのは、これは独自のものであって、何かでき上がったものがあるわけでしょう？

分科会長

これもこの間スタートしたばかりなのです。先々週に宇都宮市全体の交通のあり方について議論をするというので、これはもちろんLRTも含めてです。

空間形成の基本方針も、4項目ありますけれども、一番上はとにかく市民にわかりやすいというのが第1項のイメージです。ですので、こういう絵柄をぜひ見せて、文字で幾ら書いてもわからないと、だけれども、絵で見せれば、みんな、「ああ、そうか。」という、そういうのが第1項で、第2項が、

拠点間の役割とか公共交通のネットワーク、この辺が非常に重要になってくるのだよというところを強調していると。第3項は、新しい拠点だっていいと、つまり我々がつくっていかうとしている都市構造に合致すれば、何も、今ある既存の都市核だけが都市核であって、例えば新しく新規事業を起こしたいというような事業が入ってくる余地は十分ありますよと、そのときにぜひ公共交通軸に沿って入っていただければということイメージして第3項があると。第4項は、ただいまご説明したように、実際に、ではこれを動かしていくときに、ほかの関連計画との関係を少し明示しておいてくださいということです。

分科会長

皆さん、いかがですか。僕も星座は初めて見たのですが。

副分科会長

拠点は星というのがすばらしいと思います。拠点を結ぶ軸というのが、何かもうちょっとインパクトがないかと思うのですけれども。確かに星座の場合には星と星を結んだ線が見えていますけれども、星と星を結びつける、何かもうちょっとないかなという感じを持って見せていただいたのですが。いわゆる富山の串に相当するものですね。星と星との結びつきが何か、力関係といいますか、そういうものが欲しいかなという感想を持ちましたけれども、非常にわかりやすくていいのではないですか。

分科会長

皆さん、ぜひご感想を。

委員

星の話ではないですけれども、私もお団子と串というよりも星座の方が好きです。というのは、お団子を繋ぐ串が1本ではないですか。星座というのは、拠点同士を繋いでいくわけなので、ネットワーク化していくところで、今の段階はまだそれがはっきりこういうふうになっていますとなっているわけではなくて、今は空想の考えでこういう構想をしていますよというのを市民に言うためには、まだ線は繋がっていないけれども、皆さんの思う線がこういうふうに入るのですよというような説明の仕方が、これはすごくいいと思います。

分科会長

そこにまちづくりのシナリオが入るわけですねいろいろ考えたのですね、さすが。

ほかにいかがでしょう。

私も、串とお団子と宇都宮の違いは、今おっしゃったように軸の部分にあると思うのです。宇都宮の場合は、強い軸もあれば柔らかい軸もあるし、お団子が糸で結ばれているやつもあるだろうし、形を変えるものもあると。それは、同じ1つの固い串だけではなくて、柔らかいくし、それから二股に

分かれている串、場合によっては今言ったような糸でお団子を結ばれているものもある。そういうものを組み合わせてネットワークというのが今回の宇都宮の特徴なのかなど。

いかがですか。あと他にどうですか。

委員

ちょっと違う視点でいいですか。この資料4ですか、都市空間分科会審議結果報告書、ちょっと4番を見ていただいて、それとつけ足してみたく、ちょっとこういうふうな。これも同じように、住民サービスといいますか、一般市民にどれだけネットワークというのを享受できるのか。今、ここ数年、一、二年ですか、やり始めたのが、電子申請というのがスタートして、これから市民サービスを考えると、それが施設の、市のいろんな施設の利用をネット上でできるようになる、そういうのがどんどん進んでいくと。そういうのが進んでくると、次には遠隔医療の問題がきつと出てくる、宇都宮には大学病院がありませんから、そういう高度医療とかいろんな専門医とか、そういうふうなものが、遠隔医療の問題と、もう一つはカルテの問題が今共有化されると思うので、それがトレーサビリティと同じようにトレースバック、要するに事前の情報の、トレースですから、複写機みたいなもの、それと終わった段階の、トレースバックですから、状況把握というのですか、そういうふうなものが必ず連動するようなものが当たり前になってくるだろうと。

それともう一つは、市で考えれば、小学校、中学校という学校の生徒さんに対するそういうトレースの問題をどうするのか、そういうものがあって、市民の中に情報を開示したりなんかという。それともう一つは、違う視点で考えれば、障がい者に優しい、いろんなところが動く、そういう一つの例で考えれば、では道路に全部IC化を張り巡らして、いろんなものが案内しながら何処にでも行ける。何かもうちょっと、今後は情報化で、どんな社会になるよというものが何かせつかくなら表現できるようなものがあつたら、さっきのコンパクトシティと同じように、都市化の問題と同じように情報化というのもの、何かその辺のものが少しわかりやすく表現できたらいいなと。

分科会長

今ちょっとお話を聞いていて思ったのですけれども、情報利用のネットワークという、これは情報は必ずしもネットワークしなければだめなのだけれども、今のお話を聞いていると、カルテだとか学校だとか、拠点ごとにはやられているけれども、それがうまく使われていないとか、事前事後でうまく連携とれていないとか、多分いろんな問題があると。それでも、例えば情報利用のネットワークなのか、情報でのシームレスなどと言うかもしれませんが、全体のネットワーク、要はネットワーク型コンパクトシティと、どうもハードの話ばかりで議論しているのだけれども、情報の中でもきちんとやっぱりネットワークをつくっていかなければだめだよと、そういう発想でいいですか。

委員

そうです。それが今の都市化に、先ほどのLR Tをどうするとかコンパクトシティと全く同じなの

です。たまたま、それは情報を開示する繋がりというか、その情報が集約されたものをやっぱり拠点をつかって、それをいかに一般の人が閲覧しながら、それを再利用していくか、利活用していくかという問題があるだけなので、全く基本的には同じなのです。そのために、どういうプラットフォームというか、インフラ、道路と同じようにインフラをどうするかというのも一つの、インフラの進展によって可能になる。砂利道では実現できないけれども、それがアスファルトできちんと3車線道路になれば、逆にそれが実現すると、そういうふうな捉え方で、そういうのがこれから5年、10年の間にインフラがどんどん、どんどん進んできますから、それが有線とか無線を使いながらもっと進展する、それが実現できるのではないかと、そういう何か青写真もあるといいのかなと。

委員

今のご説明の中で、説明されたことがちょっとよくわからないのでお聞きするのですが、この文章の2行目に5年ないし10年後に状況がすべて変わってくるという風に断定していますね。これはどういう意味を持っているのですか。

委員

5年、10年後に状況がすべて変わってくる中でというのは、1つは通信スピードがかなり高度化になるだろう、それはどういうことかという、今1車線道路で走っているのが3車線道路の高速道路になりますよ、そうすると情報のスピードが変わりますから、まず変わるのです。それとか、今は携帯電話以外は有線が中心の時代ですから、これからは無線の高度化になりますから、今の有線のスピードを超えるぐらいの無線というのはここ数年先になれば実現できるので、ちょっとそういうものの利用というのは、今度は携帯的なモバイル端末で、そういう自分が持っている端末ですべての情報がすべて処理ができるということは、固定のところにいるのではなくて、移動体ですから、移動している段階でいろんな情報の利活用ができるということが大きく変わる、活用の仕方がまるっきり変わってしまうというふうな、きっと、形でこれはすべてが変わるといって表現をしているのではないかなと、そういうふうに私は理解していますけれども。

分科会長

今ご説明いただいた話の中で、情報についての拠点性ですとかネットワーク、連携というような、ちょっと文言を少し加えて、1、2、3の中とちょっと連携とれるというか、見た感じで、交通って、私も今交通計画を教えておりながら、今初めてふっと思いついたのですけれども、最初に交通の勉強するときに、物とサービスが交通なのです。だから、どうも1、2、3は物だけ、物とか人の移動だけなのだけれども、やっぱりサービス、つまり情報の移動というのも交通という枠組みの中に入れて、本来の交通の解釈をすればここも一緒に議論できるのではないかと。

ほかにいかがでしょうか。

このイメージ、大体皆さんと共有できそうなのですが、これはどういう形で提案するという形にな

るのですか。

事務局

分科会の報告書の中に入れるという形であれば、皆さんの議論の末の形を。

分科会長

そうですね。いかがでしょう。私はわかりやすくなるかなという気がするのですが、入れていいですか、皆さん。

副分科会長

市民の皆さんには、どのような形で示せるのですか。

事務局

最終的には、先ほど今後のスケジュールをご説明させていただきましたが、分科会の意見の報告と、それを今度、全体の答申書ということでまとめさせていただきます。それをいただきまして、ずっと引き続き、庁内でこの計画そのものの検討がありますので、その中で例えばこういうご提案と申しますか、こういう図面と申しますか、ビジュアルなものうまく活用ができればと、ちょっと庁内で議論させてもらいまして、それで計画書の中に最終的には形として載っていくような、それで計画書を市民の皆さんにご覧いただくというような、そんな形になればいいなと思っておりますので。

副分科会長

せっかくなつくつたやつですから、市民の皆さんにわかりやすくお願いします。

事務局

その辺もちょっと意識しまして、こんな形にさせてもらっております。

分科会長

特に皆さんのご意見がないようでしたら、資料4、これはきょうの皆さんの意見を踏まえて若干のところは修正させていただきますが、基本的にこの形で報告するというところでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

分科会長

わかりました。それでは、この形でまとめさせていただきますが、冒頭もお話をしましたが、今日は最後という形になりますので、最終的な修正は事務局の方でしていただいたものを、最後私が確認をして最終版にするということよろしいですか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

分科会長

ありがとうございます。

では、そのような形でやらせていただきますので、できましたらまた皆さんに送付させていただければと思います。よろしく願いいたします。

審議事項は以上4点ですけれども、何か皆さんのほうで、全体を通してまだちょっと議論し足りなかった、もしくはつけ加えて、つけてお話ししたいというのがありますでしょうか。

〔「なし」と言う人あり〕

分科会長

事務局のほうから特段ありますか。

大丈夫ですか。ありがとうございます。では、分科会は一応、ちょっと不在ですので、ぜひよろしく願いいたします。

では、以上ですべて審議のほうは終わりにになりました。4回にわたり、熱心なご議論をいただきましてまことにありがとうございました。

では、私の司会を終わりにさせていただきます。どうもありがとうございました。

閉会 午後4時30分